

500人が無災害達成誓う

宮坂建設工業が防災推進会議 講話や安全方針発表通し



【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は四月二十八日、帯広市内の北海道ホテルで二十二年度防災推進会議を開催した。同社社員や協力会社から五百人が出席。労働安全や交通安全に関する講話の講聴、同社の土木部、建築部の安全に関する部門方針の発表などを行い、ことし一年間の無事故・無災害を誓い合った。

同社が来年、創業九十周年の節目を迎えることに加え、「九十周年を迎える前年となること」はターニングポイントとなる年。歴史の中で培ってきたもので、良いものは残し、障害となるものは取り除き、どのように自分の職場を守っていくのかを考え、元請と下請の真の信頼関係を築き、苦しい時代を乗り切ろうと呼びかけた。

続いて、企業表彰と職長表彰を行ったあと、帯広労働基準の羽生和彦署長が「労働災害防止について」、帯広警察署の菊地裕治交通課長が「交通事故防止について」と題し、それぞれ講話した。

このあと、土木部と建築部が二十二年度の安全に関する部門方針を発表。土木部は二十二年度方針を「失敗事例に学ぶ原因と改善策」と設定し、防災防止のため、「朝礼、現場巡回時等で作業員全員に安全作業に対する意識付けを形式にとられずに日々指導する」などの改善策を定め

また、建築部では「二十二年度方針を「リスクの完全排除と予防安全の完全徹底」と設定し、目標達成のため、「同社の工事担当者が地中埋設物付近の掘削時、ライフライン事故防止

のため、一〇〇%の立会いを行う」などといった具体策を定めた。最後に、同社建築部の晴山吉久氏が安全決意を表明し、ことし一年間の無事故・無災害を誓い合った。

て、全員で安全意識の高揚に努めた。

5/6



事前調査徹底し ミスの防止を

宮坂建設工業が 防災推進会議

【帯広発】宮坂建設工業（本社・帯広）は4月28日、帯広市内の北海道ホテルで防災推進会議を開いた。関係会社を含め500人余りが参加。施工に当たっては事前調査を徹底し、安全な環境や方法でミス防止に努めるこ

とを申し合わせた。宮坂寿文社長は「安全に元方や下請けの立場は関係なく、危ないものには声を出してほしい。昔は経験豊かな職方がいたが、（世代交代が進んだ今は）皆が危険予知に努めてほしい」と指摘し、全員が基本に立ち返って現場を把握するよう要請した。写真。

安全に功績のあった協力会社や職長を表彰。羽生和彦帯広労働基準と菊地裕治帯広警察署交通課長の講演後、村井和代安全環境対策室長が安全方針などを説明した。最後に決意宣言をし